

大阪市立大学

ラグビー部マガジン

Rugby

2012
club magazine

テクニカルセミナー

→ 超基本の2対1を詳しく解説！

関西国公立大の順位変動
20年分を一挙公開！

DAIGAKU
RUGBY
LEAGUE

雑草魂
一回生の想い
タックルへのこだわり
個性を活かせ

部員不足はもはや問題ではない。 どんな状況でも 最高のパフォーマンスを発揮する。 市大ラグビー部の新たな 「挑戦」のはじまり。

2011.12.18

CDリーグ入替戦
vs奈良医科大学
76-10

試合終了後、OBや家族、友人が待つベンチ前に集まった選手たちには笑顔はなかった。
昨シーズン、市大が目指したのは1年でのBリーグ返り咲き。しかし、少ない部員に加え今年は特に怪我人が後を絶たず、満足な練習が出来なかった。結果、ライバルにはことごとく敗走し、格下にも足元をすくわれた。終わってみれば、まさかの8位。創部以来初となるDリーグとの入替戦に進むことになった。
何かが足りないと感じつつも、それが何かわからないまま。チームを作り上げ、結果を残すことの難しさを痛感した一年となった。

実力がないわけではない。個々の能力は高いし、何より一回生は多くの経験を積むことができた。足りなかった何かさえ獲得できれば、Bリーグ昇格を狙えるだけのポテンシャルは十分にある。
目標を達成するために何をすべきか、今一度考えよう。確かに怪我は怖いがない。今年取り組むべきは、少人数という状況で如何に個々の能力を高め、チームを作り上げるかだ。去年と同じやり方ではダメだ。人数が少ないからこそできることがある。
この逆境を乗り越えた先に、必ず勝利がある。



屈辱の
Cリーグ8位。
入替戦快勝も歓喜なし。

昇格へ 断固たる決意。

INDEX

TOP INTERVIEW

一回生部員

STAFF

OB VOICE

THE大学ラグビー

大阪市大ラグビー部

テクニカルセミナー

入試&進路

マネージャー

FAQ

雑草魂。

ゼロからの再出発。
ライバルに再び認めてもらうために
格下に違いを見せ付けるために
挑戦者として臨む
最後の年。



澤田侑麻（さわだ・ゆうま）
灘→工学部都市学科
173 cm、87 kg
No. 8

TOP INTERVIEW

主将 澤田侑麻

大学は4年制だから各学年最低でも5人いれば20人は部員を確保できるはず。実際、今年の20回生、新3回生は共に5人ずついる。それなのに部員が少ない理由、実はそれは、新4回生が1人しかいないからなのだ。憂うべき不作の世代か。いや、そうではない。この唯一の新4回生がすごい。今年の市大のキーマンであり、今後の市大の運命を担うにふさわしい男である。唯一の4回生としてチームを牽引する。主将として、プレーヤーとして、今年にかけける思いを聞いた。

澤田—4回生が卒業して、新4回生までで部員数は11人となりました。近年は大学院生の先輩方が助っ人として残ってくれていますが、それでギリギリ15人です。新入生が入り、カラダができあがってくる夏前までは、まともな試合は難しいかも知れません。

しかし、人数が少ない状況は今年にはじまったわけではありません。私が入部した当時からずっと少人数でやってきました。慣れてしまっただけではない状況ではあるのですが、少人数だからといって後ろ向きになることはなくなりました。むしろ、19人でBリーグに昇格した1回生のとき、17人でBリーグで戦っていた2回生のときと、周囲からは高い評価を得ており、少人数でも強いというのが自分たちのアイデンティティではないかと前向きに考えられるようになってきました。

だと認めてもらえるように、精一杯努力したいと考えています。

ラグビーを本気でやりたい。学生生活にメリハリをつけて、遊ぶときは思いっきり遊びたい。そういった人は是非私たちとラグビーをしましょう。幸運なこと、いま入部すればすぐにレギュラーになつて試合にも出れます。大学のラグビーのレベルってどんなの？ 大学のラグビー部ってどんなの？ 百聞は一見に如かずです。一度グラウンドに遊びに来てください。皆さんに会える日を楽しみにしています。

全員で守り 全員で攻める

そのような反省を踏まえ、今年、私がやりたいラグビーは、全員ラグビーです。部員ひとりひとりが個性をもつて、そしてチームとして今までにないまとまりを持つことで、少人数でも強いラグビーができると 생각합니다。人数が少ないと、なかなかユニットごとの練習ができません。だから、逆に全員がFW、全員がBKをできるような練習をし、試合中のいかなるフェーズから、誰がスタンドの位置に立つ

ていようとも攻撃ができるチームにしたいと考えています。一方で、DFは個々のタックル力を一から鍛え直し、全体として運動量の多いDFにしたいと考えています。

ラグビーで つながった仲間

ところで、大学にはクラスといったものがありません。だから、学生生活で一番長い時間を共にするのは、部活やサークルの仲間ということになります。市大ラグビー部も例に漏れず、強い信頼関係で結ばれています。そして、この信頼関係は、日々の練習や試合だけでなく、練習のオンと遊びのオフ、その両方で時間を共にするから生まれたものです。

練習後に飲み行ったり、ご飯を食べたりという日常的なこと、冬にはスノーボードといった旅行まで、部員同士でよく遊びます。ラグビーの技量には直接関係のないことですが、こういう時間がとても大切だと考えています。単純かもしれないこのオフの時間が、お互いの信頼関係を作り、その信頼関係がチームをひとつにまとめるのだと思います。

練習でも試合でも、オンでもオフでも、たとえ人数が少なくても、ひとりひとりが真剣に、そして思い切り楽しめる全員ラグビー。私は、これが市大のラグビー



ラグビーは最高の喜びや感動を与えてくれると共に、正直非常に過酷なスポーツである。しかし、その苦勞を乗り越えてこそ、この上ない達成感を味わうことができるのである。たくましい人間に成長できるのだ。昨年の新入部員は5名。彼らはなぜ大学ラグビーの道を選んだのだろうか。

大学ラグビーは しんどい？

高校経験者の中には、大学でまでしんどい練習をしたくないと考える人もいるかもしれない。ただ、冷静に判断して欲しい。過ぎ去るつらい時間と、身につく経験と能力を比べれば、残るもののほうがはるかに大きい。経験者だからこそ分かる魅力が、大学ラグビーにもある。

咲花朋
(さきはな・とも)
初芝富田林→経済学部

それに、高校と大学のラグビーは根本から違う。ラグビーの捉え方も変わってくる。自分たちで論理的に考えた練習で、ただしんどいだけの追い込みなんてしない。

岩根彬哲
(いわね・あきのり)
池田→経済学部

ラグビーを 極めたい。

好きだから
続ける。

大学からラグビーを
はじめる。

加島拓也
(かしま・たくや)
洛北→経済学部

大学ラグビーは高校経験者のためだけのスポーツではない。実際、トップレベルのチームでも陸上や柔道など他種目出身の選手が、その特性を活かして活躍している。市大にも毎年未経験者が入部し、脅威の成長の末、経験者を差し置いて活躍している。ラグビーはもともとカレッジスポーツというだけあって未経験からでもはじめやすいスポーツだ。体力や根性には自信がある、またはそれを身につけたければ、ラグビーを始めてみよう。

大西貴洋
(おおにし・たかひろ)
明星→工学部情報工

もっと強くなりたい。

1回生部員

北川大記
(きたがわ・ひろき)
富山→経済学部

真の男になる。

自分を鍛える。

それぞれの想い。
ラグビーをする理由は人それぞれ。だが、共通して言えることは、ラグビーが好きという言葉では説明できない。身体的にも精神的にも大きく成長できるこの4年間、好きなラグビーに没頭する。得られるものは、高校のときの何倍にもなるだろう。

タックルの出来で試合の勝敗が決まると言っても過言ではない。激しいタックルで流れをつかんで攻撃にも活かす。タックル——自分が現役のときにこだわってやってきたことから、いまの現役にもこだわって欲しい。低く。押し込む。イチダイタックルを武器に。



HEAD COACH

成田真章(なりた・まさあき)
生野高校→経済学部(H.10年度主将)→大阪ガス(ラグビー部所属)→H.21年度より大阪市立大ラグビー部監督



強くなるためには自分に 厳しくないといけない

つまり、日々の基本練習やウエイトトレーニングが大切であるということになります。誰でも試合でタックルを外されてくやしい思いをしたことがあると思います。そういった危機感、責任感をもって練習に取り組み、それをまた試合で発揮していく。一見単純なこのサイクルをまわすことで、個々、そしてチームのDF力は向上していきます。

こういった観点から言うと、去年のチームは気持ちの部分の上下が大きく、成長してはまた自分たちでリズムを崩すということを繰り返してしまいました。ラグビーは体格やスキルと同じぐらいに、精神的な要素が勝敗に大きく関わってきます。たとえ練習試合であっても1試合1試合がリーグ

戦につながる大切な試合であると選手に認識させ、DF力を高めていかなければならないと考えています。1年間、継続して高い意識を持ち続けることはとても大変なことです。しかし、それをやらないと絶対に強くなれません。リーグ戦で結果を残すた

いいタックルを見るとなぜ奮い立つのか。それはタックルにこめられたその人の情熱を知らず感じ取っているからである。



TEAM DIRECTOR

松本淳(まつもと・あつし)
慶応義塾大学→経済学部准教授

努力の先にある感動

めには、この自分との戦いを続け、時には嫌なことでも自分たちに課さなければなりません。時にはつらいと感じることもあると思います。しかし、必ずよい結果につながるし、そのプロセスは卒業後も誇りに思えるすばらしい経験となります。選手たちには、部員が少なくという現状に甘えず、ラグビーを通して大いに成長して欲しいと願っています。

松本「われわれ大阪市立大学ラグビー部の「強み」とは、格上に勝利する喜びを得られることです。市大のライバルとなる多くの私立大学には、関西地方の強豪と呼ばれるような有名高校出身の選手が多数在籍しています。推薦入部者が多いそのような私立大学に、一般入試をくぐりぬけてきた学生が努力を重ねて勝つという姿はとてすばらしく、私自身、大きな喜びと感動を学生からもらっています。」

また、創部92年という長い歴史を有し、そのような挑戦を経て成長した多くの卒業生が、各方面で活躍しています。一人でも多くの人が、努力の先にある喜びを実感し、伝統を支える一員になってくれることを切に期待しています。

lead the team to victory.

STAFF

学生が考えるラグビーを最適な方向に導くと共に、人間としての成長をサポートしてくれるのが市大ラグビー部のスタッフ陣である。監督の成田は今年で4年目。学生時代はBリーグでの優勝経験を持つ。その分近年の成績には選手以上にぐやしい思いをしている。部長の松本は市大ラグビー部に関わって12年。多くのドラマを見てきた。経験に裏付けられた熱いメッセージは選手達を鼓舞する。

試合で「気持ち」を出す タックルがその全て

成田「私が選手にいつも言うことは、試合は練習の成果を出す場であると同時に、自分の感情を表現する場であるということです。必ず相手を止める。1点もやるか。その気持ちが本物かどうかを証明する唯一の場所が試合なのです。そして最もシンプルに最も明確に自分の気持ちを証明する手段がタックルです。試合開始後のフアーストタックルで気持ちが入ったタックルが決まればチームに勢いをつけることができるし、追い込まれている場面では一気に流れを変えることができます。タックルが感情の表れだからこそ、このような効果が生まれるのです。しかし、試合でタックルを決めるといっても気合だけではなんともなりません。試合で最高のパフォーマンスを発揮し、感情を爆発させるためには、しっかりとした準備をしなければなりません。」

OB voice

卒業後、多彩な方面で活躍するOBたち。
その中には、週末ラグーマンとして汗を流す人も少なくない。
社会人となって、改めて感じるラグビーの魅力とは何か。
学生時代の経験は今どう活かされているのか。

自分の個性をどう活かすか。
仕事にも通じるラグビーの
考え方。

東康弘、トヨタ自動車で働いて9年目。職場では日々の生産に直結する物流の重要な仕事を担当し、毎日遅くまで業務をこなす彼だが、休日のグラウンドでも妥協はない。河川敷の練習では、集中心力を高く、仲間と共にラグビーを楽しむ。試合となれば誰よりも声を出し、勝ちにこだわる。仕事の傍らで、趣味として楽しむラグビーとはどんなものだろうか。仕事、そしてラグビーに対する思いを聞いた。

――まず初めに、どんな仕事を？

――現在、トヨタ自動車の調達管理部という部署で、他社メーカーに生産を依頼している自動車部品の管理を行っています。自動車の生産をスムーズに行うためには、3万点とも言われる個々の部品がきちんと最終組立工場に届く必要があります。自然災害などの外乱があってもそれらの部品が計画通りに届き、生産の遅れを最小限に留められるようなシステムを考案し、運用しています。昨年の震災のような大規模災害が生じたとしてもトヨタがすぐに復旧するということは日本にとってもとても大切なことであり、日々、使命感を感じながら仕事をしています。

――仕事の中でラグビーの経験が活かされたと思うことは？

――ラグビーでは体格や運動能力が優れていれば有利ですが、誰もがそれを獲得できるわけではありません。他人の恵まれた才能を妬むというのはいずれの意味のないことです。公平でないのが当たり前で、だからこそ面白い。ラグビーの試合では、自分の今もっているもので勝

大好きなラグビーをしながら仲間と共に過ごす貴重な時間。
週末の芝の匂いが疲れた体をリフレッシュさせてくれる。



負をしなければならず、あれこれ考えさせられます。そして、この考え方から考えるクセが実は仕事に活かされています。仕事では本当に多くの人とやりとりをします。その中で、自分の個性を活かす、いまある情報を活かす、というのはとても大切なことです。

――いまもラグビーを続ける理由は？

――仕事では直接関わりがない部署の人や関係会社の人と一緒にラグビーができるというのも魅力のひとつですが、それ以上に、単純に好きだから、自分がラグビーをやっている楽しいからという思いが強いです。

――大学でラグビーをすることに抵抗がある人もいます。大学ラグビーはラグビーが好きなら是非続けて欲しい。それはもちろん、大学ラグビーを通してさまざまな経験ができるということもあり、好きなことを続けるということが、人生を有意義にすることにつながると思うからです。

*トヨタラグー：トヨタ自動車の従業員を中心に構成される社会人チーム。トップリーグのチームであるトヨタ自動車ヴェルブリッツのOBも多く所属。東海社会人リーグ2部。本拠地は愛知県豊田市。

東康弘（あずま・やすひろ）
174 cm、69 kg センター
高津→経済学部
→トヨタ自動車（トヨタラグー）





生駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮
駒 久米 城 潮

THE 大学ラグビー



関西リーグ

- A 関西学院、同志社、天理 etc.
- B 大産、関大、京都、大阪教育 etc.
- C 神戸、大阪市立、大阪府立、大阪 etc.



九州リーグ

- I部 福岡、福岡工、日本文理 etc.
- II部 九州、長崎 etc.

各地区リーグ

- 北海道 北海道、札幌 etc.
- 東北 東北、仙台 etc.
- 東海A1 朝日、名城 etc.
- 東海A2 名古屋、中部、南山 etc.
- 北陸 金沢、富山 etc.
- 中国 徳山、環太平洋、広島 etc.
- 四国 松山、香川、徳島 etc.

*各地区優勝チームは代表決定戦を経て大学選手権に出場が可能。

*このほかに
・関東医歯薬大学リーグ
・関西医歯薬大学リーグ
などの大会もある



関東対抗戦

- A 早稲田、慶応、帝京、明治、筑波 etc.
- B 東京、一橋、上智、立教 etc.

関東リーグ

- 1部 東海、関東学院、法政、大東文化 etc.
- 2部 山梨学院、専修、東洋 etc.

女子サッカー日本代表のW杯制覇は、震災に沈む日本を元気づけた。無名だったなでしこ達は一夜にして英雄となり、今なお注目され続けている。次はラグビーの番だ。昨年のW杯NZ大会では、女子サッカーに続けと期待が高まった。残念ながら勝利を収めることはできなかったが、熱い試合を見せ、さらなるラグビーの振興を果たすことができた。

2019年の日本開催まで残り7年。主役となるのは現時点で高校や大学を舞台に活躍する選手たちだ。大学ラグビーを通して、そんな選手たちと時代を共有できる。そして、トップレベルではなくても彼ら同様に熱い真剣勝負を繰り広げること、日本のラグビーを盛り上げられることで、人生で我武者羅になれる最後の時間。さあ、大学ラグビーをはじめよう。

大学ラグビーは リーグ戦が主戦場

高校ラグビーと大学ラグビーの一番の違いは公式戦の形式にある。負けたら終わりのトーナメントが多い高校に対して、大学では3ヶ月にも及ぶリーグ戦がメインの大会となる。毎年試合をする相手なれば特徴も把握できるし、それに合わせた戦略や選手起用も考えられる。抽選で決まった相手に全力をぶつけるトーナメントとは戦い方が全く異なる。

そして、不思議かも知れないが、多くの場合目標はリーグ優勝ではない。例えば、関西リーグはレベルごとに4つのリーグに分かれている。各大学が目指し、あるいは守り抜こうとするものは所属リーグの称号である。それは、上位リーグとの入替戦に勝利し昇格することが最も困難であり、成果を認められる唯一の方法だからだ。長いリーグ戦で、ライバルに1敗を喫したからといって終わりではない。残りを勝てば2位で入替戦に出られるし、ライバルが負ければ優勝の可能性もある。この感覚こそ、高校ラグビーにはない、大学ラグビーの世界だ。

試合時間は40分ハーフであり、ルールもIRBが規定する世界標準と同じである。80分間は初めは長く感じるが、慣れれば問題ない。また、高校まではヘッドキックの着目が義務付けられているが、大学では義務がない。

関西大学ラグビーリーグ54校の戦い

全国には関西リーグの他に、関東に2つ、九州に1つ、計4つのリーグが大きな組織を形成している。また、各地区リーグにおいても毎年熱戦が繰り広げられている。

各リーグは関西リーグ同様、レベルごとにさらに2、4のリーグに分かれており、下位リーグのチームは上位リーグへの昇格を、トップチームは全国大会である大学選手権を目指して戦っている。

伝統と革新

激しいトップ争い

大阪市立大学が属する関西リーグでは、勢力図が大きく変わりつつある。ひとつの大きな流れは、低迷期を味わった古豪の復活である。天理大学と関西学院大学は、それぞれ92年、94年にCリーグまで降格。そこから上り詰め、08年に関学が51年ぶりの、10年に天理が35年ぶりのリーグ制覇を果たした。

もうひとつの流れは後進勢力の台頭。01年のB降格後、なかなか入替戦まで進めなかった摂南大学だが、07年にAリーグ昇格、08年には大学選手権に初出場し

揺らぐ公立の地位 食らいつけるか

このように競争が激化しているAリーグだが、残念なことには国公立の姿がない。強化に限界のある国公立は近年はBリーグ、Cリーグを舞台に、A昇格を狙う私立大学と熾烈な争いを繰り広げている。次のページに国公立主要6校の順位変動をまとめた。ここ数年は、体育系の専攻を有する大阪教育大学と、伝統の京都大学が他の国公立を牽引している。特に京都大学は、名門故の入試という負担を負いながらも、結果を残してきた。もち

ろん頭だけで勝てるラグビーではないが、それが通用することを証明し続けている。一方、我々市大はというと、4年連続Cリーグ3位という長かったトンネルを抜け出し09年に念願のBリーグに昇格を果たしたが、1年もたずして再びCリーグへと降格してしまった。そして、昨年の結果につながったわけだが、この年は市大だけでなく多くの国公立にとっても苦しいシーズンとなった。中でも神戸大学は市大同様にDリーグとの入替戦に出場するに至った。

今後とも国公立にとっては厳しい状況が続くことが予想される。いざ試合となればライバルではあるが、同じ国公立同士、伝統という誇りを胸に、力を合わせて強化を図らないといけない。

強化が進む私学×地力で挑む公立



大阪市立大学ラグビー部の「20年」とこれから

歴史的快挙

92年にAリーグに昇格

市大は強かった。92年に、創部以来初となるAリーグへの昇格を果たしているのだ。しかもBリーグへと昇格した翌年である。当時は新聞にも取り上げられ、全国から注目された。

この急進の要因はまぎれもなく強化だ。「ユニーク」と呼ばれる独特の入試制度があり、ラグビー経験者が入学しやすい環境にあったことも一因だが、それ以上にコーチの存在が大きい。ウェールズから大学院生として留学していたトーマス氏にコーチを依頼したのだ。OB会で資金を集め、ウェールズへの遠征も行った。しかし、市大の実力が真に証明されたのは97年のBリーグ優勝時かもしれない。このときトーマス氏の任期は終了していた。つまり、学生間で志を継承し、自分たちで強化を図り続けていたのだ。

減り続ける部員数 どうやって確保するか

Aリーグ昇格時の部員数は47人だった。95年はピークで55人もいた。それが年々減少し、昨年はたったの16人だった。近

年の部員不足はなぜ生じているのだろうか。最大の要因は少子化である。棒グラフに各年度の成人男性の人数を示す。驚くべきことに94年から17年間で約4割も減少している。しかし、その比率以上に部員数は減少した。この理由としては、全生徒数の減少、女子学生の増加のほか、学生が打ち込むものごとの選択肢が増加したことが上げられる。つまり、このままでは減少の途をたどるのみなのである。

市大ラグビーの魅力伝える

部員の減少は、市大だけの問題ではないし、ラグビーだけの問題でもない。この状況で、市大はどうすれば部員を増やし、部を強化することが出来るだろうか。先の部員減少の要因の内、対策が打てるのは最後の項目だ。つまり、学生の多様化が進む現代で、ラグビーが持っている魅力を伝え、ラグビーを選んでもらわないといけない。野球は飽和している。サッカーはブームが過ぎた。ラグビーには7年後の日本開催W杯がある。これに向かって、各方面がラグビーを盛り上げなくてはならない。市大にもできることがあるはずだ。

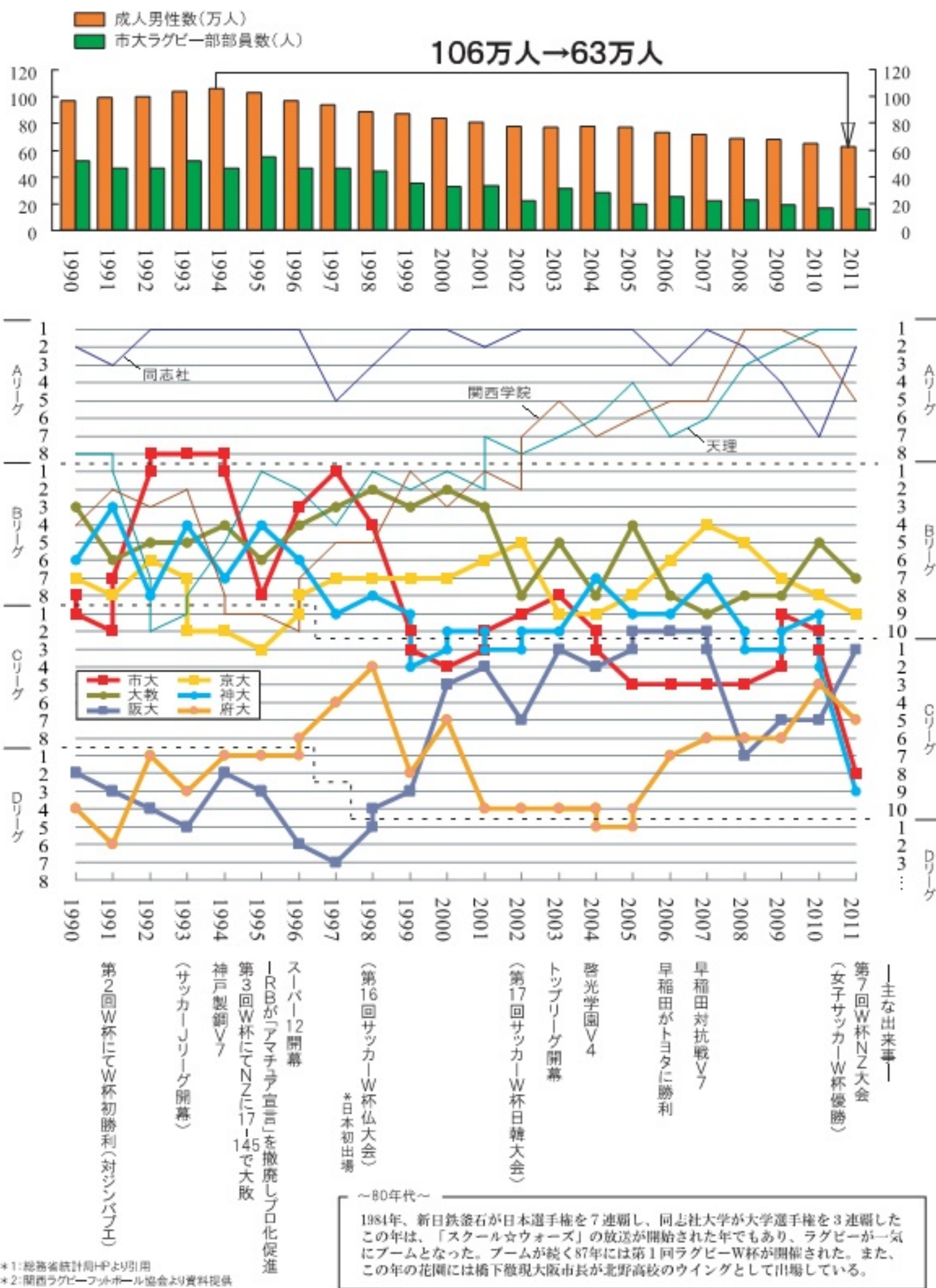
人数が少なくても強いラグビーはできる

市大が09年にBリーグに昇格したとき、部員数は19人だった。もちろんBリーグ、Cリーグの中で一番少ない。それでもこの結果を残せたのは、努力をしたからに他ならない。この年のリーグ戦9戦の平均失点はわずかに「6」だった。それだけDFにはこだわった。

人数が少ないと確かに数の論理は働かない。でも効率率は高められる。考えたことをすぐに実行できる。今年、市大は例年以上に頭を使って工夫をしないといけない。そして、少人数でも強いラグビーを見せる。それが今後の発展のために市大のすべきことだ。

ここ数年、残念なことに全国で不祥事が生じ、体育会のモラルが問われている。しかし、この場面でも、市大にできることがあると考える。大きな変化を迎えつつある今、腐ってしまおうか、輝きを取り戻すか。今後の市大に注目して欲しい。

成人男性数と市大部員数／関西主要国公立の順位変動



1990~2012

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月



活動は基本的に週5回行っている。平日の練習は4限後の16時半からで、土曜日は9時半からだ。日曜日は試合が組まれることが多い。授業やバイトで忙しい学生ばかりなので、全体練習は2時間を目標にしている。常に試合につながる課題を意識して、頭を使っで濃密で効率的な練習になるように心がけている。

夏の間は、活動のペースはそのまま、毎回午前中に練習をしている。午後は十分な時間があるのでアルバイトや資格の勉強なども可能だ。

練習時間

ラグビー部の1年は3月に始まる。5月には旧商大(市大、神戸、一橋)間で行われる三商戦という定期戦がある。8月には長野の菅平高原での合宿を行い、メインの大会であるリーグ戦に臨む。各定期試験の前はオフで、夏は海へ入ったり、3ヶ月間の冬の長期オフでは海外旅行も可能だ。充実した1年になることは間違いない。

年間スケジュール

グラウンドは芝ではないが、ナイター設備を備え、ウエイトルームも十分なものがある。この辺りは私立の強豪には敵わないが、強くなるために必要な設備が市大には揃っている。



授業の仕組み

同じ学部、同じ学科でも受ける授業はひとりひとり異なる。卒業までに取得しなければいけない単位が、専門科目、一般教養、語学などと分かれていて、それぞれの条件を満たしていくことになる。たくさんの選択科目が用意されていて、その中から自分の趣向で授業を選ぶものになる。だから、ある曜日に授業を固めて、他の日は休みなんてことも可能だ。

出席をとらない授業があるのも大学の特徴。単位の認定は、筆記試験だったり、レポートの提出だったりする。だからと言ってサボったり、時間割を友達任せにしているのはダメだ。きちんと管理しないと、卒業前に大変なことになる。

時間の使い方にはラグビー部の部員も気を使っている。忙しなくなればなるほど、無駄な時間が減って充実していく。その中にメリハリをつけて、勉強に部活動にバイトにと、うまく両立できるように心がけている。

OSAKA CITY UNIVERSITY RUGBY FOOTBALL CLUB 大阪市立大学ラグビー部

創部 ▶ 1920年



充実の設備

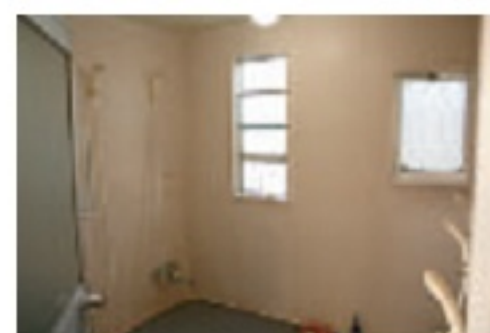
市大ラグビー部の設備は充実している。なんとと言ってもクラブハウスの存在が大きい。他の部がグラウンドから離れた部室棟に部室を構える一方で、ラグビー部のクラブハウスはグラウンドに隣接している。しかも、室内にシャワールームを完備し、洗濯もできる。2階はミーティングルームになっていて、その日の練習をすぐにチェックしたり、試合のビデオを見ることが可能だ。

創部92年の伝統

明治から大正にかけて創部された東の慶応、早稲田、東京、西の京都、同志社と時を同じくして、大正9年、大阪市立大学ラグビー部は創部した。

横断幕に掲げられた「チャレンジ」の精神を受け継ぎ、どんな逆境に陥ろうとも食欲に勝利を迫ってきた。300人以上を数える歴史あるOBクラブは、そのような学生の主体性を重んじ、資金面ではクラブハウスの建設など多大な支援を行っている。

専用クラブハウス!!



TECHNICAL SEMINAR

友田さんのテクニカルセミナー



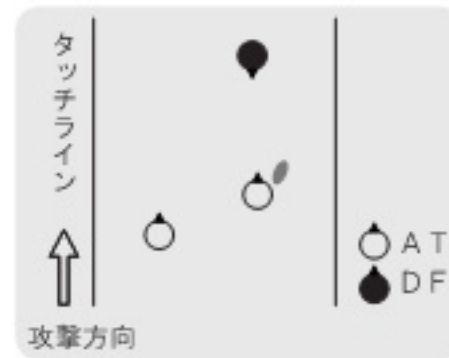
余ったらとにかくウイングへボールを回すことだけを考えればいいのか。「ひきつけてから放れ」や「流れるな」という教えに隠されたライン攻撃の本質を理解しなければ確実に抜くことはできない。そして、本質を理解できれば、応用することが出来る。このコーナーでは超基本の2対1を題材に、その本質と応用を解説し、市大ラグビー部の「考えるラグビー」を紹介する。練習に試合に、頭を使うシーンは山ほどある。考えて考えて考えて、体が大きくて足も速い、そんな上位チームに勝利したときの喜びは何物にも換えがたい。

超基本？ 2対1で確実に抜く 方法とは

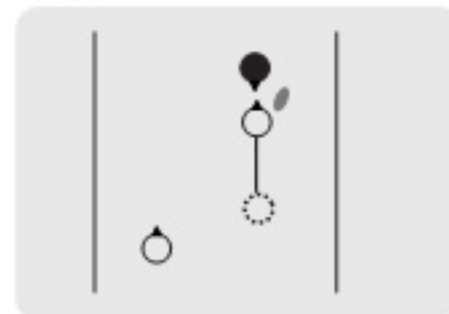
図Aの場面、DFを突破するためにボールキャリアはどんなことに注意すればよいだろうか。よく耳にするのは、「流れるな」や「相手を引きつけろ」というアドバイス。しかし、残念ながらこのアドバイスは的確ではない。

「相手を引きつけろ」と言われて多くの人が採ってしまうコースが図Bである。相手に対して真つすぐ走る。確かにDFは動けない。しかし、パスのタイミングが少し遅い。早いとDFにズレられてしまうし、遅いと相手の手にぶつかってしまうこともある。とても確実な方法とは言えないのだ。では正解を述べる。2対1のこの場面、キャリアが採るべきコースは図Cである。でも、なぜこのコースなのか。まずはこの後の動きを見てみよう。

図A



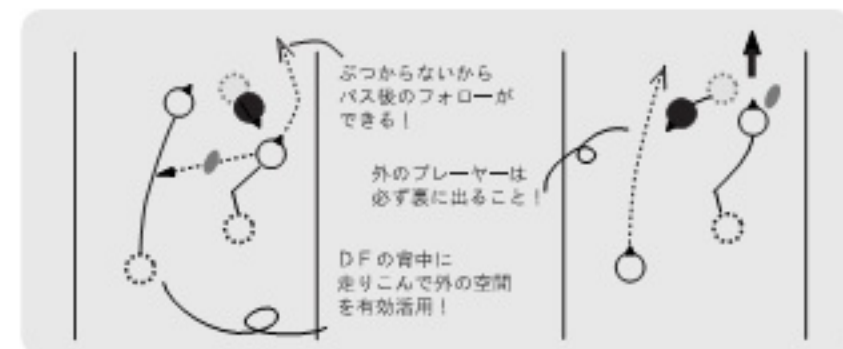
図B



図C



図D



キャリアはDFの内側を抜こうとしているから、DFはその場で待っている訳にはいかない。DFがキャリアに対応することを選んだ場合、必ず一歩動く。キャリアはその一歩を見てパスをすれば良い。(図D左) もし、DFが外のプレーヤーをケアした場合、動かないか外へ体を向ける。そうなれば、もともと内側を抜きに行っている訳だから、パスタミーでも入れて抜いてしまえば良い。(図D右) このように、走るコースを変えるだけで簡単にタイミングを計り、抜くことができる。さて、このコースの良さが分かったところで、いよいよなぜこのコースかという理由を考えてみよう。

2対1のとき、言わずもがな、目標は外のプレーヤーに確実にラインブレイクさせることである。そのためにキャリア

が考えなくてはならないことは、自分が「流れないようにする」とか、自分が「相手を引き付ける」ということではなく、

DFをズレさせない

ということだ。

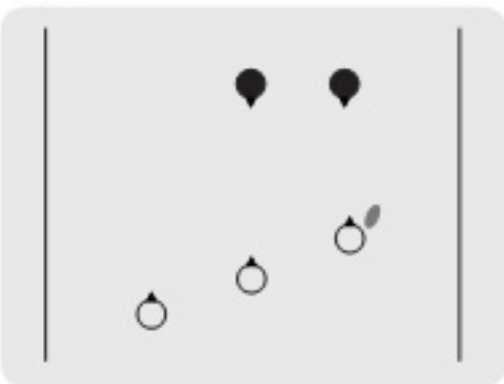
DFを確実に自分に対応させ、パスのタイミングで外にズレられないようにするために、DFの内側を走るのである。このコースを走られるとDFはもはや両ATに対応できなくなる。(図Bと図CでDF視点になってみると良い)

3対2でも 考え方は同じ

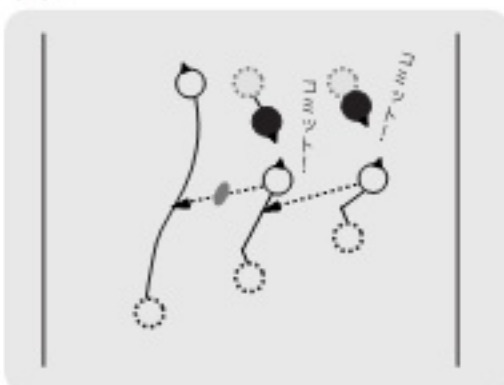
2対1の場面から、ATのコースはDFの動きを基準に考えるということを学んだ。では、早速応用してみよう。図Eの3対2の場面を考える。このとき、AT側はどういう考えでどういうコースを採ればよいだろう。

正解となるコースは図Fである。まず、キャリアはトイメンをズレさせないために内側を抜きに行く。次に中央のプレーヤーもトイメンをズレさせないために内側を抜きに行く。これもまたよく「インサイドランしろ」というアドバイスを聞くが、「インサイドラン」内側に走るの本当の意味を理解して出来ていたのだろうか。

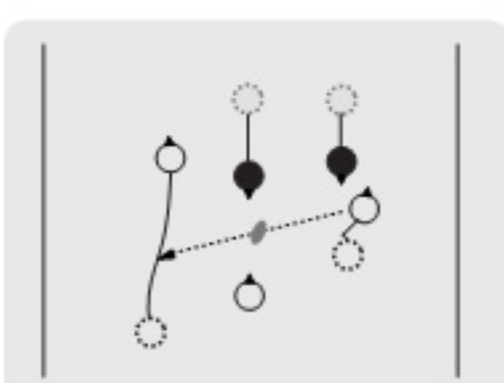
図E



図F



図G



DFの内側を走り外にズレさせないというプレーを、「コミットする」という能動的な言葉で表現できるので覚えておこう。

DFをズレさせない
DFをコミットする

2対1でも3対2でも4対3でも、外のプレーヤーに確実にラインブレイクさせるには、内のプレーヤーひとりひとりがトイメンをコミットできるかが非常に重要になる。とは言うっても、実は3対2で確実に抜くというのはとても難しい。他にも注意すべき点がいくつかあるので解説する。

まず、最初のキャリアのコミットは通常の2対1と同じタイミングでは全くダメだ。DFは2枚なわけだから中

央でつかまってしまう。キャリアは、自分のコミットより、次の中央のプレーヤーがコミットできるかどうかを優先してパスをしなければならぬ。プレーの目標は、あくまでも外のプレーヤーをラインブレイクさせることである。

また、DFの出足が早かった場合、もはやハンズ(ひとつずつパス)では間に合わない。このときは図Gのように飛ばしパスをしよう。

最後に、タテのスピードについて。DF側は仮に、内のフォロワーを待ってとにかくズレたいとする。このときAT側はタテのスピードがなければ、いくらコミットを働かしたとしても、パスに合わせて簡単にズレられてしまう。「ダメだ、ズレられない」とDFに思わせるためにはこのタテのスピードが必要になる。また、相手のズレが早かった場合など、思い切ってインサイドを抜きにくときにもこのスピードは活かしてくる。

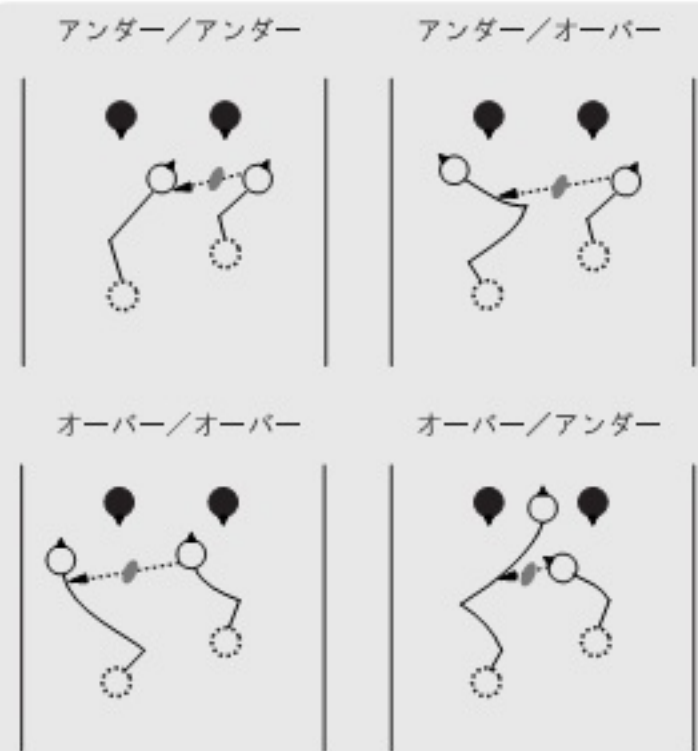
2対2の抜き方

前ページでは、いわゆる余った状態Ⅱ、数的有利な状態で、いかに確実に抜き去るかというのを「コミット」という言葉と共に解説した。次は2対2を考える。図Hの場面、ここまでと同様に何のたにどうすれば良いか考えてみよう。少し複雑になってきた。もし「裏のスペースにパント」とか思いついたら、実はそれはそれですばらしい。先入観に捕われず、選択肢を多く考えられる能力がある。しかし、ここではパスとランだけで、あくまでも抜きに行く方法を考えていと思う。

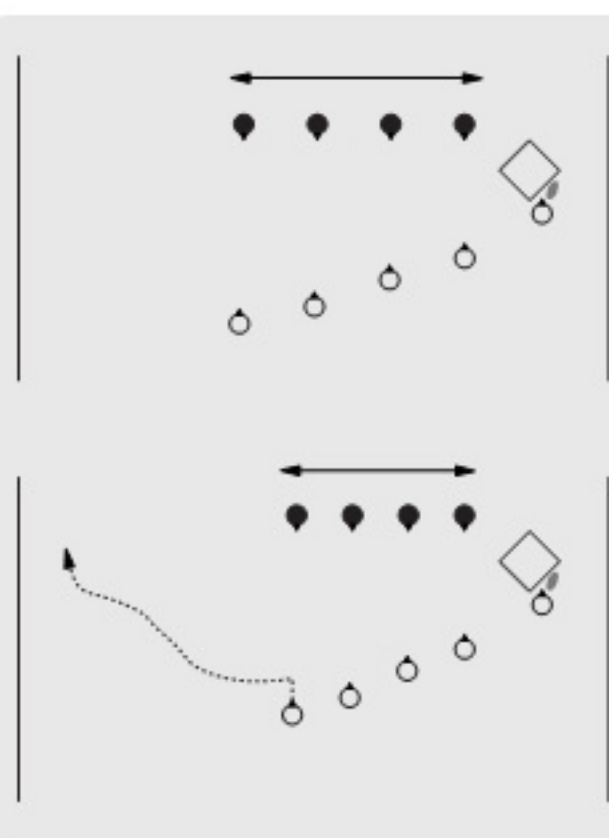
実は2対2でも、キャリアアがトイメンをコミットできるといえる。キャリアアが重要なポイントになる。キャリアアは外側で有効な1対1を生み出すためにトイメンをコミットする。

図H

図I



図J



図Hの状態になったら、瞬時に判断する。オーブンスペースはどれだけか。相手の走力はどうか、ミスマッチはどうか。そして、図Iに示す4通りのコースから適切なものを選択し、サインとして共有する。これらのコースは、アンダー（カットイン）とオーバー（カットアウト）だけで構成されている単純なものだ。たとえば、アンダー/アンダー。キャリアアがきちんと内側を抜きにいくことで、外の1対1でのカットインが容易になる。オーバー/オーバーでも、十分なスペースが必要だが、DFはもちろんズレられないし、内から追いかける形は1対1が外で形成される。

あらかじめサインを出すのは、DFより半歩でも早く動き、半身でも抜くスペースを生み出すため。カットイン、カットアウトのキレの良さも重要になる。はじめに述べた通り、2対2や3対3は数的有利な状態と異なり複雑だ。だれでも突破役になれる。この4通りだけをベースに考えてみても十分に面白い。

パスが下手でも大外まで回す方法

たとえば4対4の場面。狭く立って全員で先ほどのオーバー/オーバーをする。流れるのではなく、きちんとカットアウトできれば、パスの距離は短くても大外まで回せる（図J）。

タテの2対1

最後にタテの2対1を紹介する。ここまで何度か出てきた数的有利な状態というものには、実はタテ方向とヨコ方向とがある。ヨコの数的有利とは余った状態。コミットによって基本的には大外でのラインブレイクを目指す。

タテの数的有利とは、例えば、ウィングの位置では余っていないけれども、センター周辺で相手より人数が多い状況。あるいは、一人抜け出してFBとの1対1だが、すぐ後ろにフォロワーが来ている状況などが当てはまる。このような状況を単純化したものが図Kであるが、これまで

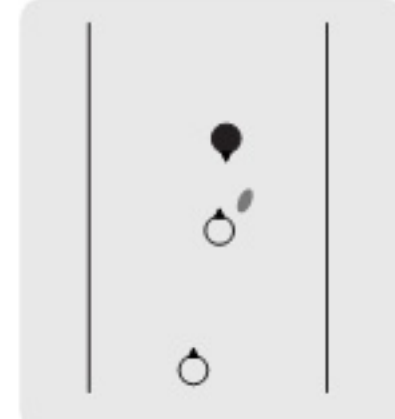
の考え方にのつとればキャリアアはどうすれば良いだろうか。もちろん、その場でスピーードを落とすなんてことはしてはいけない。ヨコの2対1では外のプレイヤーを優先させたが、タテ方向の場合は、まずキャリアア自身が抜きに行くことを考える。相手がどんなに小さい選手だろうと正面から当たりに行くのではなく、抜きに行く。それは、タックルを受けなくてもボディバランスを十分に保ち、両手でボールを扱えるようにするためだ。あとは、いわゆるオフロードパスでつなげば良い。（図L）

WHAT IS GOAL? WHAT IS PROBLEM? HOW TO SOLVE IT?

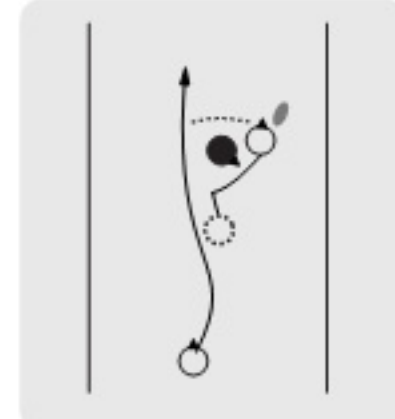
このように2対1を起点にしてもこれだけ色々考えることができる。しかし、これらの応用、考え方の流用ははじめからあったのではない。例えば、試合中にせっかくなの3対2でなかなか抜けられないという課題があつて、色々思案した結果、チームとしてコミットの結果、チームとしてコミットの結果、課題に対して、基本を応用していったのだ。



図K



図L



ラグビーは奥が深い。だから、考えるラグビーに終わりはしない。勝利を追及する限り、課題は存在し、それを解決しなければならぬ。頭を使うというのもラグビーの魅力のひとつだ。是非、大学ラグビーで考えるラグビーを体感しよう。きっと新しいラグビーの世界が広がる。

入試情報

大阪市立大学は、市立の大学で最も歴史が古く、公立大学として最も規模が大きい。
8学部を設置する総合大学であり、幅広い分野で学習することができる。

正直なところ、大学選びは成績依存度が大きい。特別な場合を除いて、東大に入れる実力があるのに、わざわざ他の大学に行く必要はないということだ。一方で、学部は自由に選べる。将来の仕事に直結しないにしても、人生で大きな舵を切ることに違いはない。だから、少なくともこの学部でどんな勉強をするのかは知っておきたい。

独断と偏見で、市大8学部のキーワードを挙げてみた。気になる学部があったらとにかくインターネットでも何でもいいから調べてみよう。どんな勉強をするのか、卒業後はどんな道があるのか。どんな勉強の第一歩、今日踏み出せるなら、今日踏み出そう。

商学部：経営・生産・消費
経済学部：経済・財政・金融
法学部：憲法・民法・刑法
文学部：文化・社会・哲学
理学部：数学・物理・化学
工学部：機械・電気・建築
医学部：医学・看護
生活科学部：栄養・居住・福祉

* ここに上げたキーワードはほんの一部だし、抽象的な言葉だ。それに理学部や工学部はさらに複数の学科に分かれる。また、農学部や薬学部、教育学部、体育学部など市大にはない学部もある。

そして、ビジョンとして持っておきたいのが卒業後の進路だ。大学入学はゴールではなく新しいスタート、とはよく言われること。

4年後の選択肢としては、進学か就職かに分かれるが、資格取得や大学院進学を考える場合であっても、その先の就職については気になるはずだ。ここでは、市大ラグビー部の就職状況を紹介したい。

結論から述べると、市大ラグビー部の就職状況は非常に良い。ここ5年間の主な就職先をまとめた。文系の総合職、理系の技術職ともに有名企業が名を連ねている。

大学卒業後の 進路

卒部生の主な進路

商社（三菱商事、三井物産、etc）
金融（三井住友銀行、etc）
エネルギー（関西電力、大阪ガス、etc）
交通（京阪電鉄）
メディア（毎日放送、J-COM）
メーカー（トヨタ自動車、TOTO、etc）
ゼネコン（大林組）
不動産（三井不動産レジデンシャル、etc）
その他（医者、パイロット）
進学（理系大学院、法科大学院）

就職活動とは？

ところで、「就活」とは何か。簡単に説明しておこう。

卒業後は企業で働きたいと考えたとき、入試のような仕組みがあるわけではない。無数にある企業から、興味のある企業を探し出し、入社を意思を伝え、試験を受けさせてもらう。実際はもっと複雑だが、とにかく一人で動くことになる。

では、選ぶ立場になって考えてみよう。就活ができるだけの社会人としての基礎能力を備えていることはもちろんのこと、学生時代の頑張りや気になった。それは、入社後の頑張りなり、考え方に反映されるからだ。

もちろん、体育会に所属していただけで就職がうまくいくほどの中甘くない。時には反発もしながら、勝利のためにチームメイトと共に考え、行動し、魅力ある人間に成長しなくてはならない。

この理由は3つある。まず、市大自体の評価が高い。次に、一般的にラグビー部の評価がとて高い。そして最後に、市大ラグビー部OBのサポートがとてもしっかりしている。

就職ではいろいろ迷うもの。そんなときに相談にのってくれるOBがたくさんいるのも、市大ラグビー部の魅力のひとつだ。



毎日のその姿を知っているから
見届けたい
最後まで。

photo : YUKITOSHI SHIDA

頑張る部員の姿にいつも励まされる！

**MANAGERS
ARE
NOW
WANTED!**

はじめはよく分からなかったけどラグビーってすごく面白い！

試合や練習のケガを治療するのも私たちの仕事！

部員からの「ありがとう」のひとことが私たちを輝かす！

ラグビーに
欠かせない存在、
マネージャー募集中。

詳しくはホームページ、
または部員、マネージャーまで！

よくある質問

FAQ

勉強×部活×バイト×遊び
学生生活を楽しもう！！

Q.1 上下関係が厳しそうな
イメージなんですけど…

ラグビー部というところからイメージしてしまうかも知れないが、まったく先輩後輩の関係はあるが、それは互いの信頼関係であって、練習時には共に頑張る仲間という意識が強い。学年に関係なく飲みに行ったりするし、夏には海や山に旅行に行ったりもする。どんな雰囲気ของทีมかは見ればすぐに分かる。一度グラウンドに足を運んで、自分の目で確かめて欲しい。

Q.2 アルバイトは
できますか？

もちろん余裕でできる。ただし、毎月15万円とか20万円とか稼ぐのは少し難しい。でも、アルバイトだけの生活に満足できるだろうか。部活動をしていても、きちんと時間管理をすれば、5〜10万円はコンスタントに稼げる。

Q.3 留年はしたくないん
ですけど…

ラグビー部の留年者はここ3年間はゼロ。それ以前の留年率も学校全体の平均よりはるかに低い。それに、部活動を頑張るなら勉強の心配はいらない。そんなことより、成績オールAを目指そう。ラグビー部で成績優秀。目指すべき姿はそこにある。

Q.4 大学ではいろいろ
遊びたいんですけど…

大いに遊ぼう。では何をしよう？もしかしてそれはラグビーをしながらでもきくことではないだろうか。それに4年間ラグビーを継続して得られる感動は、どんな遊びよりも心に残る。

Q.5 就職活動に有利って
ホントですか？

ベネッセ教育研究センターというところが行った「企業が採用時に用件として重視する能力」という企業調査の結果を示す。

チームワーク力	92.5%
自己管理能力	86.9%
リーダーシップ力	80.8%
継続力	79.7%
：	
情報処理スキル	35.6%
：	
英語のプレゼン力	5.9%
英語の討議力	3.9%

企業が情報処理の能力や英語力が必要ないと言っているのではない。これらの能力を入社後にも継続的に伸ばしてもらうためにも、自己管理や継続の力が重要だと言っているのだ。これこそが体育会が就職に強い理由である。

青年へ

ラグビーは少年を一人前の男にし、
一人前の男にいつまでも少年の心を忘れさせない
スポーツである。

大学ではまさにその両方を味わうことができる。

われわれもまた、そんな少年の一人であり、
一人前の男になるべく日々練習に励んでいる。

確かに去年は結果がでなかった。

でも今年こそ、必ずやその練習の成果を出してみせる。

そんなとき、

あと一人、あともう一人、
共に戦ってくれる仲間がいたらどれだけ心強いのか。

大切な4年間。

もちろん、やるべきことはたくさんある。

でもラグビーには、その4年間の情熱を
注ぎ込むだけの価値がある。

少年が青年に、そして一人前の男に。
何を通して成長するのか。

君の選択がラグビーであるとうれしい。

監修 友田桂樹（H21年卒）

製作 大阪市立大学ラグビー部OBクラブ
協力 信田幸敏・大神悠麗
印刷・製本 水山産業株式会社

